第２章　糸魚川市の文化財の概要と特徴

１　指定等文化財の概要と特徴

(1)文化財の指定等の状況

本市には、令和５年３月 31 日現在、161 件の文化財が指定、または登録されています。国・県・市別、種別の累計は、下表のとおりです。

全体として有形文化財が多い傾向にありますが、最も重要とされる国指定を見ると、有形文化財が５／89（5.6%）、民俗文化財が６／15（40.0%）、記念物が 15／46（32.6%）と民俗文化財の分野により貴重な文化財が残されてきた地であると言えます。また、ヒスイ、フォッサマグナ、糸魚川－静岡構造線などのキーワードに代表されるように、記念物、特に地質鉱物分野の文化財指定の存在は本市の特色といえます。

表9　糸魚川市内指定等文化財一覧

種別			国	県	市	国登録	計
有形文化財	建造物		3	0	6	11	20
	美術工芸品	絵画	0	0	2	0	2
		彫刻	2	7	30	0	39
		工芸品	0	2	8	0	10
		書跡	0	0	7	0	7
		古文書	0	0	8	0	8
		考古資料	0	3	3	0	6
		歴史資料	0	0	8	0	8
	小計		5	12	72	11	100
無形文化財			0	0	0	0	0
民俗文化財	有形の民俗文化財		3	0	4	0	7
	無形の民俗文化財	風俗慣習	2	0	3	0	5
		民俗芸能	1	0	2	0	3
	小計		6	0	9	0	15
記念物	遺跡（史跡）		3	2	9	0	14
	名勝地（名勝）		1	1	0	0	2
	動物・植物・地質鉱物（天然記念物）		11	3	16	0	30
	小計		15	6	25	0	46
文化的景観			0	－	－	－	0
伝統的建造物群			0	－	－	－	0
合計			26	18	106	11	161

令和５年３月 31 日現在

(2)指定等文化財の時代別の状況

本市に所在する指定等文化財を主たる時代（制作・築造・使用の年代）別で整理すると、中世が 49 件と最も多く、以降は近世が 34 件、古代が 18 件と続きます。また、時代／種別は、古代・中世の彫刻が多く、そのほとんどが神仏像です。

表 10　糸魚川市指定等文化財数量表(時代別)

	有形文化財								民俗文化財			記念物			合計
		美術工芸品								無形の民俗文化財					
	建造物	絵画	彫刻	工芸	書跡	古文書	考古資料	歴史資料	有形の民俗文化財	民俗芸能	風俗慣習	遺跡（史跡）	名勝地（名勝）	動物・植物・地質鉱物（天然記念物）	
先史							6					3		1	10
古代		1	13	1	1									1	18
中世	2	1	22	5	3	4		6	1			5			49
近世	10		2	3	3	4		1	4			4			34
近代	8		1						1			1			11
年代未分類			1	1				1	1	5	3	1	2	28	39
合計	20	2	39	10	7	8	6	8	7	5	3	14	2	30	161

(3)指定等文化財の地域別の状況

指定等文化財を地域ごとに整理すると、糸魚川地域が 123 件と最も多く、次いで、能生地域が 32 件、青海地域が 6 件と続きます。

種別ごとの内訳を見ると、建造物は市街地に集中し、次いで山間部に分布しています。美術工芸品は、ほとんどが市への寄託と個人所有のため、市街地に多数分布しています。有形の民俗文化財は、山での暮らしの道具や、海での暮らしの道具が中心で、山側と海側に分布しています。一方、無形の民俗文化財は民俗芸能が中心で、市街地と山間部に分布しています。史跡の分布も主に市街地と山間部に分布し、内訳は中世から近世の城跡が中心となっています。天然記念物は、大木・名木・社叢林、生物生息地・発生地、植物帯、硬玉産地であり、市内各地に分布しています。

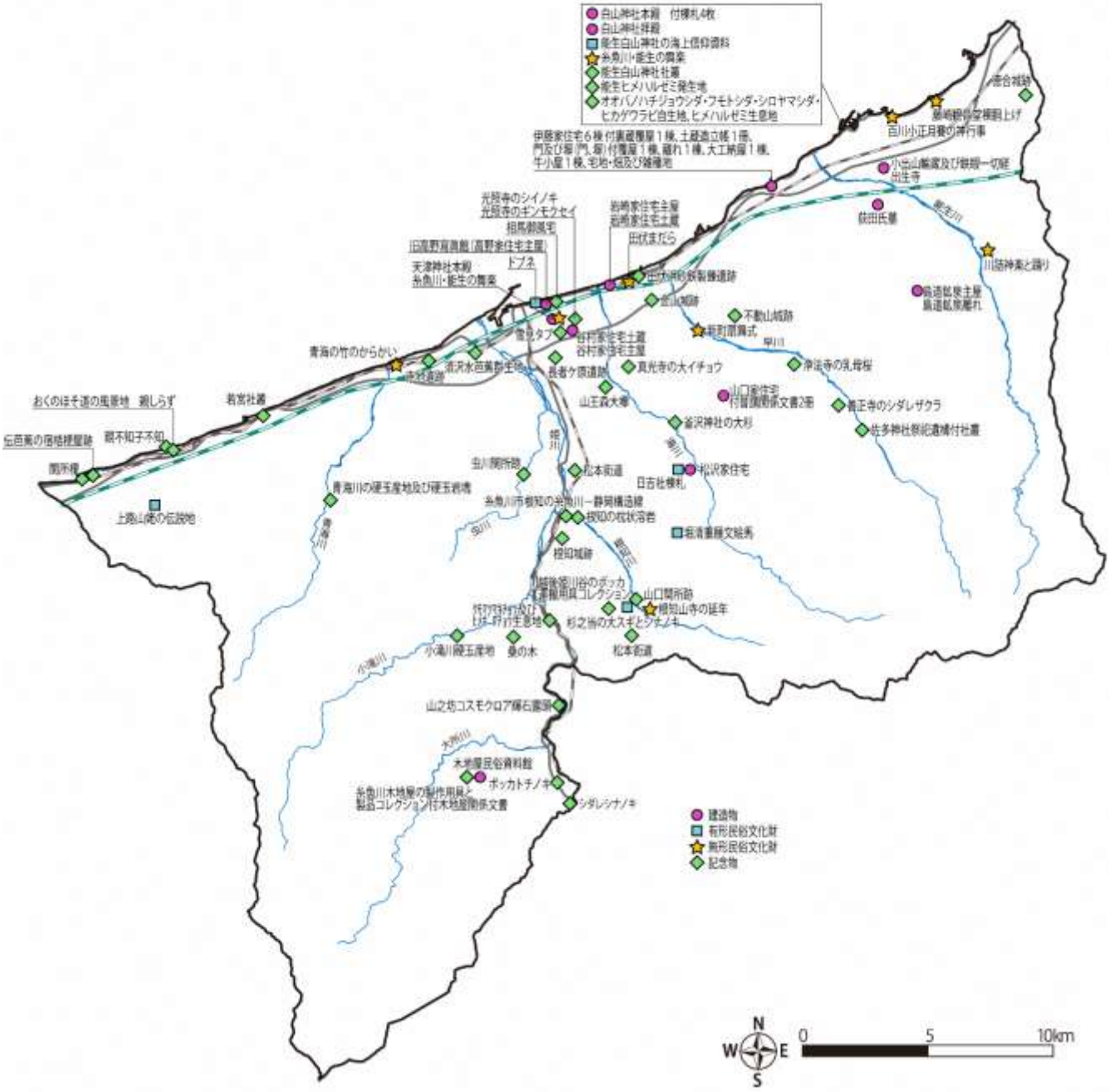

図 16　指定文化財位置図

(4)指定等文化財の概要

本市は、東日本と西日本、山と海の文化が分岐・混在する地域であることから、そうした特徴は所在する文化財にも見られます。指定等文化財について代表的なものを挙げます。

①建造物

建造物は、国指定が「白山神社本殿」「山口家住宅」「伊藤家住宅」の３件、市指定が「小出山輪蔵および鉄眼一切経」「天津神社本殿」など６件で、計９件です。寺社関連が６件、住宅は３件です。登録文化財は 11 件で、「木地屋民俗資料館」とえちごトキめき鉄道関連施設を除く７件が個人所有の住宅等となっています。

ア）社寺

「白山神社本殿」（国指定）は、永正 12（1515）年建立、三間社流造、柿葺で、新潟県最古級の建造物です。たびたびの修理を経て、昭和 33（1958）年の重要文化財指定後、同 35、36（1960、1961）年の修理工事を最後に現在に至っています。

白山神社本殿

イ）民家

「山口家住宅」（国指定）は、代々庄屋を務めたと伝えられています。建築当初の普請帳によると安永８（1779）年に建てられ、寄棟造、茅葺（現在は鉄板）で、四面に鉄板葺の庇や突出部を後設しています。雪国民家の特徴をよく表し、梁組が四方を鉞梁とするなど、地方的特色を示しています。

山口家住宅

「伊藤家住宅」（国指定）は鬼舞に所在し、江戸後期から明治にかけて栄えた県内屈指の廻船主の住宅で、明治 20（1887）年の大火後に主屋などが再建されました。住宅は広大な敷地中央に主屋が北面して建ち、その北西に座敷の蔵、米蔵・味噌蔵、米蔵の３棟の土蔵を矩折れに配し、更に塀を延ばして、東面に門を開いています。上越地方の近世民家形式を基軸としつつ、近代的発展を遂げた上質な近代住宅として高い価値を有しています。

伊藤家住宅

②美術工芸品（絵画、彫刻、工芸品、書跡・典籍、古文書、考古資料、歴史資料）

美術工芸品は 80 件が指定されており、約半数が彫刻となっています。国指定の能生白山

神社「木造聖観音立像」、水保観音堂奉安庫安置の「木造十一面観音立像」のほか、計39 件が彫刻として指定され、うち 32 件が社寺所有となっています。美術工芸品全体でも３分の２に当たる 53 件が社寺所有となっています。元々は社寺所有であったものの諸事情で区に移管されたものも多く、地域の歴史、文化と信仰との関わりが深いことがうかがえます。

ア）絵画

「絹本双幅四所明神・弘法大師画像」（市指定）は、四所明神と弘法大師を１対の双幅としたもので、箱書から高野山三宝院の所蔵品が、天明７（1787）年に神宮寺に贈られたようです。本格的な筆法で保存状態も良く、南北朝時代の製作とされる絵画双幅で、一の宮天津神社の境内に明治初期まで所在した神宮寺の隆盛を物語る数少ない資料の一つです。

「絹本着色十三仏図」（市指定）は、初七日から三十三回忌におよぶ故人の中陰・周忌の法要に当たって、それぞれの本尊とされる 13 種の諸仏菩薩・明王を曼荼羅風に描いたものです。各尊は、朱・群青・緑青等に金泥彩を交えて細やかに彩絵され、輪光などには切箔も用いられて入念な作です。その謹直な画風から南北朝時代を下らないものと認められ、古例の少ない十三仏画像の貴重な遺品です。

四所明神

弘法大師

イ）彫刻

「木造聖観音立像」（国指定）は、桜材の一木造で、姿勢、服装、腰裳、顔、目、唇等は藤原時代の特徴をよく表現しています。宝髻部及び頭頂部の枘穴から仏首を植付けた十一面観音、さらに両手首を矧ぎ、両肩側面に脇手を取り付けた痕跡から千手観音であったとも推定されます。内刳素地で破損が甚だしかったため、昭和 28（1953）年に修理が行われました。

「木造十一面観音立像」（国指定）は、水保観音堂の別棟にある奉安庫に安置されています。一般に鉈彫と呼ばれる丸ノミを横に用いて荒っぽく彫る技法で作られ、新潟県内でも珍しい仏像です。桜材の一木造で、両手首は失われていますが、ノミの運びは自由で素朴な穏やかさを感じさせます。頭部の天冠台上には、薄くなっていますが、墨書きで口を開いて笑った顔や怒った顔など十面が描かれているのも珍しく、藤原時代における荒彫、鉈彫彫刻の一例として貴重な遺品です。

木造聖観音立像

ウ）工芸品

「経王寺の梵鐘」（県指定）は鐘身の上半身で鐘の径が急に狭くなり、激しい曲線を描く極めて特徴のある形を成しています。この手法は、越中国（富山県）で活躍していた黒部系鋳物師の特色で、銘文からも、この鐘の作者が越中国前沢金屋（黒部市）の鋳物師大工で、永享４（1432）年に糸魚川の人達が地元の神宮寺に奉納したものであることが分かります。明治の廃仏毀釈で経王寺へ来たものですが、神宮寺の遺品の一つであるとともに越中の中世鋳物師が本貫を刻んだ梵鐘としては現存する最古のものであり、新潟県に現存する数少ない中世の梵鐘の一つです。

経王寺の梵鐘

エ）書跡

能生の白山神社は、かつて白山大権現と言われ、戦国時代には上杉氏の庇護を受け、社領 200 貫、宗徒寺院は大平寺をはじめとして 22 寺もありました。しかし、慶長３（1598）年の上杉景勝の会津（福島県会津若松市）移封の後は、社領の全てが没収され、祭祀料はわずかに７石となり、かつての繁栄は見られなくなりました。「朱印状三代将軍徳川家光」（市指定）は白山神社に下付された朱印状等で、徳川幕府代々の将軍から手厚い庇護を受けて隆盛をきわめた、神社の歴史を示す貴重な資料です。

朱印状三代将軍徳川家光

オ）古文書

豊臣秀吉の五奉行、増田長盛を責任者とする越後国検地帳は 10 冊が現存していますが、「越後国頸城郡早川谷之内日光寺御検地帳」（市指定）はそのうちの１冊で、検地帳の形式は最も完成した太閤検地方式を示しています。表記内容は１頁に６行６段で、１段目は上中下の位付け、２段目は縦横の間数、３段目は田畑・屋敷の別、４段目は面積、５段目は石高表示による分米、６段目は名請人になっています。表紙の東清左衛門尉は現地の責任者で、末尾には実際に検地を行った小森九左衛門尉の名があります。天正 10（1582）年に始まった太閤検地もこの地では文禄４（1595）年に行われたことが分かります。

越後国頸城郡早川谷之内
日光寺御検地帳

「漢和連句昌叱筆」（市指定）は、天正６（1578）年９月 25 日の句会のものです。昌叱とは桃山時代の連歌師で、本名は里村弥三郎仍影といい、また別号を策庵ともいいます。豊臣秀吉に仕え、法橋（僧位の一つで法眼の次）に叙せられ、文禄４（1595）年には百石の知行を受け、「花の本」の称号も得ています。「連歌」は「和歌」を母体として発生し、近世の俳諧へと続いてきた日本独特の詩形態で、中世に盛んに行われたことを物語る資料の一つです。

カ）考古資料

長者ケ原出土遺物

「長者ケ原出土遺物」（市指定）は、長者ケ原遺跡中央部を対象とした昭和 29・31・33（1954・56・58）年、１～３次調査の出土品の一部で、縄文時代中期の土器群、大珠製作資料、土偶などから成ります。これらの遺物は、遺跡中央部に営まれた集落跡の年代、硬玉製大珠や蛇紋岩製磨製石斧の製作、周辺地域との交易、集落で行われた祭祀などといった北陸屈指の規模を誇る集落跡の特徴を如実に示すことから、当地方の縄文時代やヒスイ文化を研究する上で不可欠な資料です。

キ）歴史資料

永和の墓塔

「永和の墓塔」（市指定）は、根知山寺の金蔵院境内にある花崗岩の石塔で、旧千手院墓地から掘り出されたものです。永和２（1376）年の北朝年号は、市内に残る墓塔としては最古であり、当地が北朝（室町幕府）の支配下にあったことを示すとともに、中世に隆盛した大規模な寺院とされる千手院はもちろん、山城跡を多く残す根知谷の歴史を知る上で貴重な資料です。

「正慶（しょうきょう）の板碑（いたび）」（市指定）は、早川右岸の不動山城主で上杉一族の山本寺（さんぼんじ）氏に仕えた伴家（ばんけ）の火葬場（不動山城の麓）から出土したとされる板碑で、当地では産出しない緑泥片岩（りょくでいへんがん）を用いています。２面とも著しく欠損していますが、阿弥陀如来の種子（しゅじ）（梵字）を刻み、蓮華と正慶２（1333）年の北朝年号も刻まれています。市内に残る金石文としては最古であり、板碑の類例がない当地において、不動山城や早川谷の歴史はもちろん、こうした板碑を盛んに用いた関東方面との交流を知る上でも参考になる資料です。

③有形の民俗文化財

能生白山神社の海上信仰資料

「能生白山神社の海上信仰資料」「越後姫川谷のボッカ運搬用具コレクション」「糸魚川木地屋の製作用具と製品コレクション」が国指定となっています。

「能生白山神社の海上信仰資料」（国指定）は、国内唯一と言われるハガセ船を描いた大型の船絵馬を含む 97 点が指定されています。平成 31 年度に所有者の白山神社が文化庁の補助事業により、温湿度管理が適切に行える施設に整備され、入室時のルールを徹底するなどの白山神社文化財保存会の尽力により、文化財が適切に保存されています。

「越後姫川谷のボッカ運搬用具コレクション」（国指定）は、糸魚川から信州松本まで延びる約 120 ㎞の松本街道を往来した歩荷や牛方が用いた運搬用具です。歩荷とは荷を背負って運搬すること、又は運搬人を指します。根知地区の青年団が中心となり、昭和 48（1973）年から収集した約 2,000 点の資料のうち、精選した 706 点が指定されました。江戸時代から昭和初期にかけて用いた背負運搬用具、牛方運搬用具、携行用具、衣類などから成ります。近世以降における信越交易の様子を示す資料として大変貴重です。

「糸魚川木地屋の製作用具と製品コレクション」（国指定）はロクロと呼ばれる独自の木工具で椀木地などを製作する職業集団の製作用具です。資料は木地製作や漆器製作に用いた用具類とその製品はもちろん、木地の未製品から成ります。糸魚川の木地屋は江戸時代末期に大所に定着し、トチやブナを用いて椀木地はもちろん、塗りも行っていましたが、第二次世界大戦を境に、その生産活動はほぼ休止して現在に至ります。これらの資料は全て同一の集落から収集されたもので、木地と漆器の製作を各家が分業で行っていたことを示すなど、木地製作の変遷を示す貴重な資料です。

④無形の民俗文化財（衣食住・生業・信仰・年中行事等に関する風俗慣習、民俗芸能、民俗技術）

無形民俗文化財は、風俗慣習が３件、民俗芸能が５件指定されています。風俗慣習では「青海の竹のからかい」が、民俗芸能では「糸魚川・能生の舞楽」「根知山寺の延年」が、それぞれ国の文化財に指定され、広く知られています。

そのほか、奇祭「藤崎（とうざき）観音堂裸胴上げ」、日本海側に広く点在した民謡の一つである「田伏まだら」、国家の慶祝事にのみ舞われてきた「新町翁舞（あらまちおきなまい）式」など数多く残されています。

加賀街道や松本街道あるいは北前船による往来などもあって、当地は他地域から文化や芸能を取り入れ、それぞれの谷で土着の文化と融合し、変化し、発展させ、独自の形態を確立してきました。一方、閉鎖的な地域で形を変えることなく伝来した当時を想起させる所作なども少なくありません。

ア）風俗慣習

「青海の竹のからかい」（国指定）は、江戸時代から続いていると言われる小正月行事であり、青海地区の東町と西町に伝わります。歳神の来臨を仰ぎ、その神前において青竹を引き合って豊作・豊漁を占うもので、さいの神焼きを通じて新年の再生を願います。町が東西に別れ、化粧をした若い衆などによる２本の竹（勇み竹・合せ竹）の引き合いは、大変珍しく、地域の生活文化を示す小正月行事です。

青海の竹のからかい

「田伏（たぶせ）まだら」（市指定）は、日本海側の集落に多く点在した民謡「まだら」の一種で、新潟県内では田伏地域だけに漁師の祝儀唄として伝承されています。短い歌詞の母音部分を長く引いて唄うところに特徴があり、同様の祝儀唄は能登の七尾市にも伝わることから、この地方における漁村の習俗や海上交通の歴史を知る上でも貴重と言えます。

イ）民俗芸能

「糸魚川・能生の舞楽」（国指定）は、糸魚川の天津神社と能生の白山神社の春季大祭に伝わる舞楽で、ともに大阪四天王寺「聖霊会の舞楽」の流れをくみ、天津神社は４月 10 日、白山神社は４月 24 日に奉納されます。稚児による演目が多いことから、稚児舞楽とも呼ばれて親しまれています。

「根知山寺の延年」（国指定）は、山寺集落の日吉神社に奉納される神仏習合を色濃く残す新潟県内唯一の延年芸能で、地元では“山寺のおててこ舞”として親しまれています。舞の由来や起源は定かではありませんが、おててこ舞の歌詞には室町小歌の言葉づかいも残ることから、京都の流れをくみ、400 年から 500 年前には伝わったとされています。

能生白山神社春季大祭

おててこ舞（根知山寺の延年）

⑤遺跡（貝塚、古墳、都城跡、城跡、旧宅等）

長者ケ原遺跡、寺地遺跡、松本街道が国の史跡に指定されているほか、城跡、関所跡など計 14 件が指定されています。茅葺の竪穴建物や掘立柱建物が復元された長者ケ原遺跡や寺地遺跡は遺跡公園として保存整備され、市民の憩いの場となっています。

「長者ケ原遺跡」（国指定）は、これまで遺跡の適正保存を第一に保存管理を行ってきましたが、改正文化財保護法による文化財の活用の推進がうたわれたことを受け、この遺跡公園を、市民により、市民のために有効活用しようという動きが始まっています。約 13.6ha と広大な敷地には、体験学習広場や集落跡広場などある程度広がりのある空間があることから、縄文キャンプやトレッキング、アニマルトレッキングなど、各種イベントでの活用が始まり、今後の更なる活用方法の広がりが期待されます。

「相馬御風宅」（県指定）は、本市における典型的な町家の様式と近代建築を先進的に取り入れた建築で、相馬御風が数々の作詞や文筆活動を行った書斎があります。市街地に残る町家巡りのスポットとして不特定多数の出入りに対応するため、平成 28 年度に復原・耐火・耐震化工事が行われました。

相馬御風宅

信州、越中の国境に位置する本市では、守りの最前線にある根知城、勝山城をはじめ、春日山城との中継の役割を持つ不動山城や徳合城など多くの城跡や関所跡がのこされています。

⑥名勝地（庭園、橋梁、峡谷、海浜、山岳等）

「おくのほそ道の風景地　親しらず」（国指定）は、市内で唯一の名勝地として指定されています。大自然の創り出した景観であるがゆえに、景観そのものの保存は難しく、来訪者の転落防止柵の設置や、波打際の道を覆い隠している木々の伐採等に留めています。

おくのほそ道の風景地
親しらず

⑦動物・植物・地質鉱物

「白馬連山高山植物帯」（国指定）は、日本アルプスを代表する高山植物の生育地帯で、新潟・長野・富山の三県にまたがっています。白馬三山をはじめ、白馬大池、雪倉岳などに及ぶ広大な地域には、キバナシャクナゲ、コマクサ等の多種類の植物が見られるほか、チシマセンブリ、リシリオウギ等の北地系植物の南限を成すものもあります。

白馬連山高山植物帯

「ライチョウ」（国指定）は、高山帯に生息する鴎鶏目（おうけいもく）の鳥で、天敵にごく弱いことから四季に応じた保護色になります。火打山や焼山、白馬岳に連なる小蓮華山等で生息が確認されています。

ライチョウ

また、市内には「クモマツマキチョウ及びヒメギフチョウ生息地」（県指定）など貴重な動物の生息地が指定されています。また、「ヤマネ」（国指定）や「イヌワシ」（国指定）、「オジロワシ」（国指定）なども生息が確認されています。特にイヌワシについては、市内の谷々で生息が確認されており、大変豊かな自然が残されていると言えます。

蓮台寺の「光照寺のギンモクセイ」（市指定）、「光照寺のシイノキ」（市指定）、「雪見タブ」（市指定）や水保の「山王森大欅」（市指定）などは樹齢が 300 年以上と推定され、他も 200 年以上の古木が指定されています。「山王森大欅」や、市振の「関所榎」（市指定）は、巨大な落枝や幹の空洞化などで倒木の危険性が指摘されています。

関所榎

「小滝川硬玉産地」（国指定）は、ヒスイ（硬玉）岩塊が確認できる場所です。ヒスイは、蛇紋岩中に混じって産出する白色や緑色半透明などのヒスイ輝石と呼ばれる鉱物から成る岩石で、古来より装飾品や威信財として珍重されてきました。硬玉の加工遺跡が下流域で確認されたこともあり、この産出地は本市の地質学・鉱物学はもちろん、先史・古代文化史の上でも貴重な存在です。

小滝川硬玉産地

2　未指定文化財の概要と特徴

(1)未指定文化財の把握状況

これまでの調査や文献などから、令和５年３月現在、1,344 件の未指定文化財を把握しました。

表 11　把握済未指定文化財一覧

有形文化財	建造物	社寺	58	128	191
		民家	18		
		近代建築	1		
		近代化遺産	24		
		近代和風建築	20		
		現代	7		
	美術工芸品	絵画	3	63	
		彫刻	1		
		工芸品	1		
		書跡	6		
		古文書	4		
		考古資料	5		
		歴史資料	43		
民俗文化財	有形の民俗文化財	衣服	48	136	593
		食事	5		
		住居	25		
		生業	32		
		運搬	14		
		講・組	2		
		信仰	9		
		山車	1		
	無形の民俗文化財	食事	43	457	
		生業	24		
		紡績・染色	6		
		社会生活	17		
		婚姻	15		
		産育	19		
		葬送	18		
		別火・慎制	4		
		定期市	1		
		年中行事	102		
		民間医療	7		
		祭礼	9		
		信仰	9		
		講	5		
		民俗芸能	43		
		民謡	65		
		行事	69		
		その他	1		

記念物	遺跡	洞窟	4	382	555
		集落跡	7		
		製鉄跡	1		
		窯跡	3		
		城館跡	23		
		社寺跡	21		
		塚・経塚	23		
		その他	1		
		遺物包含地	176		
		散布地	2		
		戦跡	6		
		社寺	36		
		仏堂	5		
		交通	56		
		産業	8		
		災害	9		
		伝承地	1		
	名勝地	公園	2	124	
		庭園	10		
		岩石	5		
		洞穴	1		
		峡谷	4		
		瀑布	4		
		湖沼	5		
		湿原	1		
		海浜	19		
		火山	1		
		温泉	8		
		山岳	33		
		高原	5		
		河川	23		
		その他	3		
	動物植物地質鉱物	動物	4	49	
		植物	12		
		地質鉱物	33		
文化的景観			5	5	5
合計			1,344		

令和５年３月現在

(2)未指定文化財の特徴

①建造物

谷村美術館

文化勲章受章者で建築界の巨匠、村野藤吾の設計による谷村美術館は、シルクロードの遺跡をイメージした独特な外観をもち、澤田政廣の仏像作品を展示するための練りに練られた内部空間も多くの人を魅了します。その文化的価値は高く、将来的に指定、又は登録文化財として活用されることが望まれます。

また、民家では茅葺屋根で雪国特有の中門造りの建物が、昭和 55（1980）年に山間部から能生歴史民俗資料館として海岸部へ移築され、のこされています。

その他、この地方では、北前船による廻船業の隆盛もあって広島の尾道産石造物が運ばれ、沿岸部の社寺に数多く奉納されています。

②美術工芸品

伴家文書

谷村美術館で展示されている仏像は、文化勲章受章者で相馬御風と交友関係があった彫刻家、澤田政廣によるものです。仏像一体に一つの展示室が使用され、自然光を巧みに取り入れた造りから、天候、時間、角度により、仏像の表情が様々に変化して見えます。

古文書では、加賀の井文書や伊藤家文書、伴家文書などがあり、本市の江戸時代の商いや北前船による交易、社会構造など、歴史を知る上で大変重要な文書が大量に残されています。加賀の井文書は寄託を受け、市で保管しています。

③有形の民俗文化財

塩づくり用具

海・山・里での人々の生活に使われた農具、漁具、運搬具、製塩用具など多岐にわたる用具類さらには衣類なども多く残されています。資料の中には当地の海岸に面する寺町・押上地区の沿岸漁業で使用された漁撈用具などもあり、海に関わる生業を語る貴重な文化財です。

④無形の民俗文化財

二人立ちの獅子舞や萬歳などを演ずる太神楽は、本市全域の集落で舞い継がれていましたが、現在は、10 程度の保存会がかろうじて伝承している状況です。また、十二の舞、岩戸舞などと呼ばれる里神楽（太夫舞、太々神楽とも）は、神職により舞い継がれてきたものが近年、氏子など村人により舞われるようになり、主に能生地域以東で継承されています。西海の水保神楽や下早川の日光寺岩戸舞は、戦後、しばらく途絶えていましたが、水保では平成２(1990) 年に、日光寺では平成 20 年頃に地元有志により復活するなど、各地区の保存会により伝統芸能が継承されています。

食文化でこの地方独特とも言えるものに笹寿司やバタバタ茶が挙げられます。

笹寿司は、上越市、妙高市などを含む上越地方全域で、上杉謙信の時代の合戦時に携帯食として広まったとも言われ、谷々で形や大きさ、具材、押し方の強さなどに違いが見られます。

笹寿司

バタバタ茶は、全国的には北前船の寄港地周辺で広まったと言われるお茶と振り茶の習慣で、この辺りでは本市と隣接する富山県朝日町の一部の地域でその文化が受け継がれてきました。糸魚川の町家などで盛んに行われ、相馬御風も興味深い風習と伝えています。

本市では、たくさんの年中行事が育まれてきました。さいの神や鳥追いも各地で盛んに行われてきました。上早川湯川内のさいの神は、長野県野沢温泉村のさいの神のように、火を消そうとする側と消されないよう守る側に分かれて、けんかまがいの攻防戦が繰り広げられます。また、天津神社や日光寺では、神輿をぶつけ合うけんか祭りが伝えられ、今も賑わいを見せています。

天津神社　けんか祭り

かつては、地域の中で暮らしに必要な物が全て賄えるよう菓子屋、鍛冶屋、建具屋、桶屋、味噌屋など数多くの様々な職業が存在していました。こうした諸職で使われてきた道具類も、今となっては貴重な文化財です。

方言についても他の文化同様、東西文化の境界にあることから様々な影響を受けており、谷々には、かなり古い形態の方言も残されています。

⑤遺跡

本市における周知の埋蔵文化財包蔵地は、令和４（2022）年３月１日現在、279か所を数えます。多くは、土器、石器等遺物の分布調査により明らかとなったものであり、昭和 50 年代後半以降は、高速道路建設等の大規模開発に伴って多くの遺跡が発掘調査されました。また、その他に明確な場所が判明せず、周知の埋蔵文化財包蔵地となっていませんが寺院や台場などの伝承が残る地点や、伝承碑などで過去の災害を今に伝える場所も多くあります。

発掘調査中の笛吹田遺跡

⑥名勝地

島根県の足立美術館にある日本庭園を手掛けた造園家中根金作による玉翠園、翡翠園は、観光名所となっています。その文化的価値は高く、将来的に指定、又は登録文化財として活用されることが望まれます。

翡翠園

⑦動物・植物・地質鉱物

明星山周辺に生息するムラヤママイマイは、日本産マイマイ属の中で、石灰岩地に特化した固有種です。

明星山などの糸魚川の険しい岩山に自生するミヤマビャクシンは、「糸魚川真柏」と呼ばれ盆栽家から珍重されています。

マイコミ平は、石灰岩が雨水で浸食されてできた日本屈指のカルスト地形です。ここには、日本一深い竪型洞窟の白蓮洞（びゃくれんどう）（深度 513ｍ）をはじめ、国内で深度１位から４位までの竪型洞窟が存在しています。

マイコミ平

⑧文化的景観

国指定重要有形民俗文化財「糸魚川木地屋の製作用具と製品コレクション」を擁する木地屋集落周辺には、現在も木地の材料とされたトチやブナの林が広がり、当時の木地師が生活した風景を見ることができます。

また、山と海岸に挟まれ僅かな平地に営まれた漁村の筒石集落は、間口が狭く３階建ての木造住宅が建ち並ぶ独特の景観を残しています。

筒石集落の家並み